

教科	情報	科目	社会と情報	単位数	2	学年・コース	1年 全
教科書	東京書籍「社会と情報」			担当者	福島 伸一・高橋 勇気・関野 楓馬 村山 健介・平岡 徹		
概要・ねらい	情報通信ネットワークが大きく発展した現代社会において、情報が持つその意味と価値を学習を通じて学ぶ。また、情報が持つ利便性と危険性を理解し、それらを有効に活用できる知識と態度を養う。情報化の進展が及ぼす影響を体験的に認識し、情報化社会に主体的に参加していく態度を育む。						
年間授業計画	一学期	配当時間	学習内容	評価基準			
		2	オリエンテーション	・コンピュータ室利用やコンピュータ利用に関する学校の規則や利用法について説明を行う。			
		4	1章情報を活用する 03静止画ムービーを作ろう	・文章作成ソフト等を使用して、簡単な文書作成など課題作成を行い生徒の技能状況を把握する。			
		5	4章望ましい情報社会に向かう 22レポートを作成しよう	・情報機器の種類と特徴について学ぶ。			
	4	3章1節情報科の影響と課題 1. 誰でも表現者・発信者の時代 2. 情報社会の闇 3. 情報セキュリティ 4. 情報モラル	・個人情報の意味と個人情報保護法について理解する。 ・個人情報の漏洩の実態、防止対策について学ぶ。 ・メールやSNSを利用する際のモラルとマナーについて学ぶ。 ・有害サイト、チェーンメール等、特に携帯電話利用の注意 ・知的財産権の構成について理解する。				
	4	3章2節法律と個人の責任 1. 情報社会と著作権 2. 個人情報の保護	・著作権の構成と各権利の内容について理解する。著作権法を守る態度を身に付ける。 ・出会い系サイト規制法など、情報社会に係わる大切な法律について理解する。 ・自己の責任を自覚し、他者の権利を尊重する態度を身に付ける。				
	1			《第1学期期末考査》			
	二学期	12	1章3節情報の表現と伝達 3. 効果的なプレゼンテーション	・プレゼンテーション実施の流れについて学ぶ。 ・プレゼンテーションのリハーサルや実施上の留意点について理解する。 ・プレゼンテーションの評価方法について学ぶ。			
		9	pepperでプログラミングを体験しよう	・プログラミングを通して、論理的思考力や問題解決能力を養う。 ・プログラムの仕組みと情報社会の一員となることを理解する。			
4		2章1節インターネットの利用 1. インターネットの仕組み 2. WWWと電子メール 3. 情報の検索	・IPアドレスやドメインについて学び、実習でIPアドレスを確かめる。 ・WWWについて学び、ブラウザでWebページを表示する仕組みについて理解する。				
1		2章2節ネットワークとコミュニケーション 1. メディアの発達 2. 多様な情報発信 3. ネットコミュニケーションの特徴	・地図情報、動画配信サービス等のインターネットサービスについて学ぶ。	《第2学期期末考査》			
三学期	4	1章2節アナログからデジタルへ 1. 情報のデジタル表現 2. デジタルデータの特徴	・アナログとデジタルの意味について理解する。 ・デジタル化のメリットについて理解する。 ・情報量の概念と単位について理解する。 ・2進数・10進数の相互変換ができるようにする。				
	7	1章3節情報の表現と伝達 1. 情報の表現と伝達の仕組み 4章望ましい情報社会に向かう 23データを加工しよう	・画像のデジタル化の仕組みと、解像度と画質の関係を理解する。 ・表計算ソフトへのデータ入力について実習で学ぶ。 ・各種のグラフとその特徴について学ぶ。 ・表計算ソフトを使ってグラフを作成する。 ・表計算を利用してデータの並べ替えができるようにする。 ・表計算ソフトの関数の利用について理解する。				
	1			《学年末考査》			
履修上の注意							
総授業数の内、半分以上が実習となるので、移動の際に遅れないこと。定期試験は期末考査のみ行う。評価は定期試験の結果と、実習時間中の課題の提出状況・完成状況で判断するので、課題については必ず提出すること。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	コミュニケーション能力の活用	表現・処理	知識・理解			
評価の観点の趣旨	情報が持つ意味と価値を知り、情報社会におけるそれらの利便性・問題点を理解した上で有効に活用しようとする積極的な態度が身に付いたか	デジタル化した情報を総合的に用いて、新しいコミュニケーション手段として取り扱える技術を身につけることができ、その姿勢を養おうと積極的に取り組んでいたか。	ネットワークを介した表現や、アナログ・デジタル情報の双方の利点を活かして、統合的に伝達したい情報を処理し、表現することができたか。	情報社会やネットワーク関連等の基本的な用語を理解し、情報機器の仕組みや取り扱いを行うことができるか。また、新しい知識には積極的に取り組んでいたか。			
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 課題の作成状況	授業への取り組む姿勢 実習での発表 課題の作成状況	実習での発表 課題の作成状況	授業への取り組む姿勢 実習での発表 定期試験			